

Contents

「HIV/AIDS：その予防とケアへの協働」.....	1
「地域におけるHIV陽性者等支援」成果発表会.....	2
長期療養シリーズ	
冊子「長期療養時代の治療を考える」発行.....	4
部門報告(2009年1～3月).....	5
2008年度総会・活動報告会のご案内.....	8

「HIV/AIDS：その予防とケアへの協働 ～パートナーシップ、ネットワーク、コミュニティ～」

第23回日本エイズ学会学術集会・総会

会長 市川 誠一(名古屋市立大学大学院看護学研究科・教授)

第23回日本エイズ学会学術集会・総会を2009年11月26日(木)から28日(土)の日程で、名古屋国際会議場にて開催致します。日本エイズ学会は1987年にエイズ研究会として、当初は基礎研究を中心とした研究会で開催されましたが、HIV感染症およびその関連疾患に対する臨床研究、HIV感染の拡大に対する社会医学・社会学的研究のニーズが高まり、現在では基礎研究領域、臨床研究領域、社会医学研究領域の研究者、そしてHIV陽性者の支援や予防啓発の普及に関わる様々な専門職者が参加する学際的な学会となっています。

エイズが登場してから、世界では7000万人を超える人々がHIVに感染し、その半数に及ぶ人々がこの感染症で亡くなりました。こうした厳しい現状の中、HIV/エイズに関する基礎医学領域、臨床医学領域の目覚ましい研究成果によって、抗HIV薬が開発され、複数の抗HIV薬を用いた治療法(HAART)が導入され、HIV感染症はエイズ発症で死亡することが避けられる時代となりました。

一方、わが国のHIV/エイズの発生動向は、今なお報告数の増加が続いており、2008年も1500人を超える状況となっています。わが国では抗HIV薬による治療が導入されたにも関わらずエイズ発症患者報告数が増加しています。本総会が開催される愛知県でも名古屋市を中心に増加が続いており、主に男性同性間、滞日外国人への対策が課題となっています。

わが国においては1980年代後半から国、自治体、地域ボランティア団体(NGOやNPO)によって、HIV/エイズについての啓発が積極的に進められてきました。しかし、HIVはそれらの啓発活動や検査・医療対策が届きにくい人々の間で広がってきました。HIV陽性者への偏見や差別は今なお日本の社会に見られ、また社会のマイノリティである男性同性愛者、性産業従事者、滞日外国人の人々へのアプローチが充分でないことからHIV感染対策が脆弱であり、HIV感染のリスクが高い環境にあるといえます。

HIV感染症に対してわれわれが取り組むべきことは、HIV感染リスクの高い環境にある人々への早期検査と相談

の提供、そしてHIV陽性者への早期治療と治療継続の支援、福祉面での支援であり、その体制を構築することと思います。そしてこれらの体制を、上述したHIV感染対策が脆弱な人々に向けて啓発していく社会的支援体制が、これらの人々やHIV陽性者への偏見・差別を低減し、またHIV感染の予防にも貢献することになると考えます。

男性同性愛者のNGO/NPOが、「Living Together:「HIVを持っている人も持っていない人も私たちは一緒に生きている」という表現で、HIV陽性者の手記をもとにHIV感染のリアリティを伝え、検査・相談・医療・予防に関するさまざまな情報をコミュニティに広める取り組みをしており、第20回日本エイズ学会学術集会・総会(会長：池上千寿子)では、このLiving Togetherという言葉がキャッチフレーズになりました。こうしたNGO/NPO活動を促進するためには、国、地方自治体、エイズ予防財団、医療機関、保健所、教育機関、企業などとパートナーシップを持ち、ネットワークを広め、コミュニティ(地域)でのHIV感染対策を推進していくことが大切と考えます。地域にある様々な関係機関がその専門性を有効にするために、パートナーシップを連携(ネットワーク)していくことは、HIVというウイルスとの長期にわたる戦いへの戦略として重要と考えます。

以上のことから本学会総会では、「HIV/AIDS：その予防とケアへの協働～パートナーシップ、ネットワーク、コミュニティ～」をテーマに、わが国の基礎研究、臨床研究、社会医学の各領域の研究者のパートナーシップとネットワーク、そして地域社会における様々な関係機関のパートナーシップとネットワークを推進し、HIV/エイズの研究の促進と共に、地域の人々へのHIV/エイズの啓発普及の機会にしたいと考えています。

会場では研究発表に加え、展示会場でNGO/NPOのブースを設け活動を紹介すると共に、発表コーナーで独自のプログラムを交換するセッションも企画したいと考えています。全国から多数の方々のご参加を心よりお待ちしております。

「地域におけるHIV陽性者等支援のための研究」成果発表会 in 大阪&東京

「地域における HIV 陽性者等支援のための研究」(研究代表者: 生島嗣)の平成 20 年度研究成果発表会として、大阪と東京の 2 会場でシンポジウムが開催されました。(財団法人エイズ予防財団 研究成果等普及啓発事業)

大阪

第 22 回日本エイズ学会学術集会・総会 サテライトシンポジウム
「関西地域における HIV 陽性者の支援を考える: HIV 検査から HIV 診療の間にある支援ニーズとその課題 ~現場からの報告~」
2008 年 11 月 28 日(金) @大阪国際交流センター

医療や検査業務に従事している方を含め会場満員の 226 名の方に来場いただきました。大阪府岸和田保健所の吉田留美氏、大阪市北区保健福祉センターの松本恵子氏、大阪医療センターの下司有加氏と岡本学氏、大阪市エイズ派遣カウンセラーの土居加寿子氏、エイズ予防財団 / CHARM の岳中美江氏が各々保健師、看護師、ソーシャルワーカー等としての立場から発表を行い、続いて、コメンテーターに名古屋市立大学の市川誠一氏をお迎えし、神奈川県衛生研究所の今井光信氏により提示された保健所における検査体制の課題をもとに、ぶれいす東京の生島嗣進行によるパネルディスカッションが行われました。なお、本シンポジウムにあわせ、「関西地区で HIV 陽性の結果を受け取った経験者の声から」(発行:エイズ予防財団)と題した事例集を制作し、会場に配布しています。



パネルディスカッション
(左から岳中氏、土居氏)

来場者アンケートより

アンケート回収数 93(うち医療関係者 34 名(医師 2 名、看護師 14 名他)、行政関係者 28 名(保健所職員 17 名他))。参加目的は「自分の業務に関係している」「現状や、他職種との連携・他現場について知りたい」などが多く、主な感想には「『告知から受診までいかにスムーズに行えるか』が課題」「だからこそ『各職域がいかに連携し、支え合いながら患者を支援していくか』が求められている」「受診前相談の可能性の話が興味深かった」「十分な説明がされておらず不安を高めていることから、一般医療機関での適切な知識普及の必要性を感じた」などがあがっていました。

(文責: 木村 / 大槻)

参加者より

「保健所の HIV 検査で思うこと」

保健所保健師

私が働く保健所でも全国の他の保健所と同じように、無料・匿名で検査を実施している。結果は 1 週間後。事前・事後の相談時間も設けている。検査の結果が陽性と判明される方もおられる。検査事業を担当してもうすぐ丸 2 年。まだまだ悩みながらの日々である。結果が陽性と判明した場合、医療機関への受療支援は保健所の役割のひとつである。匿名性を守りながら、また限られた時間の中でどこまで当事者に必要な支援が出来るのか、いつも考えている。一方で保健所は地域住民の支援をつかさどる機関、匿名検

査とはいえもう少し踏み込んでよいのではという意見もあり、また私の頭を悩ませる。

今回のシンポジウムに参加して様々な立場の方の話を聞き、保健所で検査をしたとはいえ、その後の事を保健所で全てを担わなければならないのではなく、当事者が必要なときに支援を求める先を知ることができるよう情報提供でき、また保健所もそのひとつであることをメッセージとして伝えることができればよいのではないかと思った。

「受診前相談について思うこと」

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

医療社会事業専門員 岡本 学

受診前相談を始めたきっかけは、あるカウンセラーからの電話でした。HIV 検査場で陽性結果通知後の相談を担当されており、カウンセラーよりソーシャルワーカーが得意な分野ではないかと感じることという相談でした。中にはその心配のせいで受診ができないでいる陽性者がいるということでした。当院は「ブロック拠点」ですから、地域の陽性者の相談支援は役割だと私自身は認識をしており、「受診前相談」として対応をさせていただきました。

以来、数名のカウンセラーの方や電話相談、ドロップインセンターのスタッフの方からのご紹介や、患者さんや陽性者の方からの口コミで、利用される方が時々いて、こっそり対応しているような状況でした。

寄せられるご相談は、プライバシーのことや、健康保険制度、年金制度、家族・パートナーへの病名通知、病状の不安、就労、HIV のイメージ(死ぬのではないか?)、拠点病院について、他の陽性者がどうしているのか、他者への感染の不安、医療費など、さまざまです。

受診をするかどうか自己決定をする事は長期療養生活のスタートにはとても大切で、だからこそその部分を支援していきたいと考えています。

今では病院として「受診前相談」をブロック拠点病院の役割として、ソーシャルワーカーの受診・受療支援としての業務だと認識し、web 上のいたるところに宣伝をしていただくまでになりました。

成果発表会という場で発表したことにより、病院スタッフ内での認識が高まったこと、地域の保健医療スタッフなど陽性だと伝える立場の方に、陽性者のリソースの一つとして知ってもらえる機会となったこと、行政担当者(厚労省含む)の方にそういうニーズがあるんだと伝えることができたことを嬉しく思っています。何よりも、会場にいた方々から温かい拍手と声をいただいたこと、陽性者の方々からエールをいただいたことに励まされ、頑張ってい



受診前相談について発表をする岡本氏

うとあらためて思う次第です。

陽性だとわかった時に、安心して医療が受けられるように、受診前相談を続け、そして全国どこでも利用ができるように、そのニーズと意義を広め受診前相談を掲げるソーシャルワーカーを増やしていきたいと思えます。

「ブロック拠点病院の外来看護師として受診を受け入れる立場から」

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター
下司 有加

当院では年間約 200 人の新規 HIV 陽性患者を受け入れています。紹介元は一般医療機関が多く、拠点病院、保健センター、NPO 主催の検査などです。陽性告知を受けてから受診に至るまでの期間は個人の背景によりさまざまですが、告知直後の不安や動揺が大きく、紹介元の医療スタッフから連絡をいただき、当日すぐに受診につながるケースや、反対に前医での告知時を含めた対応が悪く、その後医療にかかるのを中断してしまい、日和見感染症を発症して当院に自ら受診に来るケースもあります。

前者のように告知直後ではなくともきちんと医療機関につながり、療養を継続できれば問題はありますが、後者のように医療機関への受診を中断し病状が悪化してしまったり、それ以上に中断のまま受診に至っていないケースがあることは大きな問題であると考えます。

患者が受診する前の段階で、陽性告知後当院にご紹介いただいた事実を患者の了解を得て連絡して下さる医療機関もしくは保健センターがあるのですが、そのまま受診に至っていないケースが年間数例存在します。医療機関からの紹介の場合は前医が個人を特定できる情報をもっているため、当院に受診されていないことを連絡し、前医から患者に受診を促す連絡を入れていただくよう支援をしていますが、保健センターでは匿名での受検であり、そういった支援は困難な状況です。

陽性告知の現場で関わる医療者はまさに患者にとって長い療養生活が始まる中で初めて出会う医療者であり、告知での体験が患者の心理に影響を及ぼし、その後の療養生活へも大きく波及します。初診時の患者が抱える問題が告知時の良い体験によって軽減していることも多くあり、病院にいる私達を含め医療者の適切な対応は患者が療養生活を継続していくうえでの重要な要素ではないでしょうか。



パネルディスカッション（左から下司氏、松本氏、吉田氏）

東京
シンポジウム「HIV 陽性者と社会生活」
2009 年 1 月 21 日(水) @ 新宿文化センター

HIV 陽性者がよりよい社会生活を送るための環境づくりにおける課題を共有することをメインテーマに据え、ぶれいす東京の生島嗣による「HIV 陽性者を対象にした相談から見える、就労に関する課題」、埼玉県立大学の若林チヒロ氏による「HIV 陽性者の社会生活の現状と課題」、はばたき福祉事業団の石谷誓子氏による「企業の人事担当者への

インタビュー調査を通して」の各発表の後、はばたき福祉事業団の大平勝美氏と日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラスの高久陽介氏、厚生労働省職業安定局の藤井礼一氏をゲストにお迎えしてトークセッションが行われました。平日昼間という時間帯にもかかわらず 66 名の参加者に来場いただき、質疑応答のコーナーではフロアとの活発な意見交換がなされました。



人事担当者へのインタビューについての発表をするはばたき福祉事業団の石谷氏

来場者アンケートより

アンケート回収数 52(うち障害福祉、就労支援担当など行政関係者 16 名、NGO メンバー 7 名、企業関係者 6 名、ソーシャルワーカー 4 名、HIV 陽性者 4 名など)。参加目的には、「自社における障害者雇用の促進」「自分の就労も含め、情報収集」「自分の就職活動の振り返りと今後についてのヒントを得たい」など、支援者側からも「就労相談が多くなってきた」「業務で療養について関わることがあっても、就労をどう支援していいの知識が少ないため」(ともに行政関係者)などがあがっていました。感想には、「職場内で打ち明けられた人のケアの重要性」「長期療養となった今、情報が重要。現状では情報・知識の格差が大きい」といった言及が複数ありました。

(文責：木村ノ大槻)

参加者より

「HIV 陽性者である僕と、僕の就職活動」

バタートースト

2008 年のはじめごろ、僕は就職活動をしていた。結局全然違う職種についたのだが、当時の希望は企画職。一般・障害者両方で活動する中、ある障害者採用の担当者からはこんな言葉も聞かれた。

「企画職のキャリアをお持ちの障害者の方がいることは想定していませんでした」

今回の成果発表会での発表を聞き、また質疑応答の中で自分が希望する職種を紹介してもらえないという意見が会場から出たのを耳にして、その言葉が脳裏に蘇ってきた。HIV そのものへの理解に加えて、採用担当者が持っている障害者像を改めるような働きかけをすることが大事なな、という印象を持った。免疫機能障害の方は初めて、ということも多く、部署の意向を確認するとしてしばらく保留されることもあった。そうしたときは大抵は不採用になってしまうのだが、ある企業は一般枠で出した購買の求人でもいいかと打診してきた。通院配慮はする、HIV についても OK、そして職場環境は…。

「この職場、勤務時間の 8 割がたは英語を話すことになりそうですけどどうですか？」

無理ですと即答したが、障害者でももっと専門的な仕事ができることに気付いてもらって、ちょっと嬉しかった瞬間でもあった。

あれから 1 年、景気の後退により求人を取り止める企業がでるなど、就職のハードルはあの頃とは比べ物にならないほど高くなってしまっているが、求人中の陽性者の人たちが 1 人でも多く“良縁”に恵まれることを祈りたい。

「免疫機能障害者の雇用推進のステップについての所感」

企業の人事部：障害者雇用担当者

HIV 陽性者を障害者雇用の視点で捉えた場合、雇用が進まない理由はいくつかのレベルに分けられると思います。少々乱暴ですが、HIV について理解が足りず、採用すべきでないと考えている HIV が障害認定の対象になることを知らない HIV をある程度理解しつつ具体的な配慮や対策がわからない HIV について勉強しつつ守秘義務の点で困難を感じる というように分類できると思います。

はこれまで以上に啓蒙の回数や仕方を工夫していく必要があり、は経験のある企業の情報シェアの場があればと思います。

今回の研究会で、HIV 陽性者の方が感染情報の開示も含め、就業に対し、想像以上に前向きであるということを知ることができた点は、採用を考える企業にとって有意義であったと思います。各社の事情があり、すぐ大幅に状況が改善されるというわけではないと思いますが、種々の対応や守秘義務等を困難なものとして杓子定規に考え最初から諦めるのではなく、候補者と話しあう余地のある課題であるということについて、HIV 陽性者サイド・企業サイドの双方で啓蒙を進めていければと感じました。

「HIV/AIDS 対応、日本を変えていこう」

社会福祉法人はばたき福祉事業団 理事長 大平 勝美

HIV 医療の急速な進歩に伴い、HIV 感染者・エイズ患者の社会生活は大きく変化している。適切な医療と自己管理はエイズの重篤化や発症を殆ど抑え、抗 HIV 治療により普通の生活ができる時代となった。しかし、社会や病院など

で未だ知識が普及していないのと、理解と実際の対応が大きく乖離していることのギャップが感染者を悩ませている。一方、感染者に慢性感染症としての疾患に変化している自覚や、病気に向き合い病気を抱えながら社会参加・社会化していく姿勢と勇気が求められてもいる。

社会全体の知識と理解の牛歩状態と、自己開示に対する内なる差別不安の大きさなどによる、触れないことが得策という状況を打開するため、はばたき福祉事業団は協働という企画を掲げて打って出た。行政も医療者も多く関係者がエイズ偏見・差別があると知っていて、それを打ち破る一歩に踏み込んでいないことが、日本のエイズ対策 25 年の経緯から良く見える。

この度の「HIV 陽性者と社会生活」の成果発表会に臨み、就労場面で当事者も自己開示して働く人が出てきたことや企業も障害者雇用枠なども含めて採用する積極性が見えてきたことにとっても心強さを感じた。私たちは、薬害 HIV 事件の教訓から、自ら動き出すことで社会は変わることをさらに実践していきたい。



トークセッション(左から、若林、藤井、高久、大平、生島各氏)

長期療養シリーズ

冊子「長期療養時代の治療を考える」発行

「長期療養時代の課題をとらえる試み」

矢島 嵩

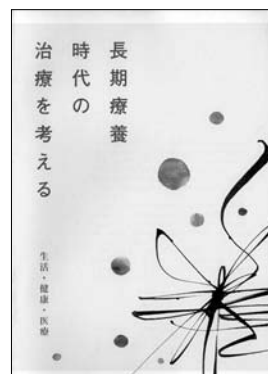
長期療養シリーズは、当事者である HIV 陽性者の視点からの調査、その結果に基づいた冊子作成、シンポジウム開催といった複合プロジェクトです。日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラスとぷれいす東京が協働して、2003 年にスタートし、今回が 5 回目のシリーズとなります。

今年度は、HIV 陽性者向け WEB アンケート「生活者の視点からとらえる HIV 陽性者の治療・医療とのつきあい方に関する調査」を 2008 年 11 月 -12 月にかけて行い、日本全国からさまざまなバックグラウンドの HIV 陽性者 147 名から回答を得て、その結果をまとめた冊子「長期療養時代の治療を考える」を 2009 年 3 月に発行、同名のシンポジウムを 4 月 19 日に開催しました。

効果の高い薬の登場や、医療体制の整備などによって、HIV 陽性者にとって医療とのつきあいは長期的なものとなっています。病院やクリニックをどのように決め通院し

ているか、さまざまな医療従事者とどのようにつきあっているか、服薬の開始・継続・変更そして副作用や薬剤耐性といった問題をどのようにとらえているか、情報収集やその信ぴょう性についてどのように判断しているか、健康観にどのような変化があったか……。HIV 陽性者がこういった長期的な課題に直面しつつ暮らしていることが、この冊子にまとめられた回答分析からも読み取ることができます。豊富な自由記述もぜひお読みいただき、長期療養の支援ツールの一つとして役立てていただければと思います。

この場を借りて、アンケートに協力いただいたみなさんにお礼を申し上げます。



冊子「長期療養時代の治療を考える」の表紙

部門報告

(2009年1～3月)

ホットライン

エイズ電話相談 (ぶれいす東京および東京都委託)

ホットライン部門・活動状況 ()内は出席人数

- 1月 4日 電話相談仕事始め
臨時世話人会(5名)
9日 東京都電話相談連絡会(3名)
18日 世話人会(6名)
スタッフミーティング(23名)
- 2月 13日 東京都電話相談連絡会(3名)
15日 世話人会(5名)
スタッフミーティング(15名)
カマササイズ(5名)
- 19日 HL活動報告書の入力作業打合せ(4名)
- 3月 3日 東京都ボランティア講習会(6名)
11日 新・相談記録票の修正打合せ(2名)
13日 東京都電話相談連絡会(2名)
15日 世話人会(7名)
スタッフミーティング(19名)
HL活動報告書の入力作業打合せ(2名)
シフト担当引継ぎ(4名)
カマササイズ(6名)
- 23日 新・相談記録票の修正打合せ(2名)

相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	1月	2月	3月
日数(日)	4	4	5
総時間(時間)	16	16	20
相談員数(延べ人)	4.5	4.5	7
相談件数(件)	41	32	46
うち(男性)	39	29	41
(女性)	2	3	5
(不明)	0	0	0
(陽性者)	0	0	1
1日平均(件)	10.3	8.0	9.2

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	1月	2月	3月
日数(日)	12	12	13
総時間(時間)	36	36	39
相談員数(延べ人)	28.5	28.5	33
相談件数(件)	241	228	269
うち(男性)	201	175	217
(女性)	40	52	51
(不明)	0	1	1
(陽性者)	2	2	0
1日平均(件)	20.1	19.0	20.7

この3ヶ月の相談は件数的には平均的と言えますが、日によるバラつきを大きく感じました。研修もほぼ終わりになり、新

しい風が吹いています。シフトの運営にも余裕が出てきました。さあ新年度、スタッフと力を合わせて盛り上げていきたいと思っています。(報告:佐藤)

バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

利用者数

13カ所の病院に通院中、もしくは入院中の23名の方にのべ30名のバディスタッフを派遣。

活動内容(2009年3月末現在)

派遣継続中	21件
在宅訪問	13件
病室訪問	3件
在宅の電話のみ	1件
派遣休止	3件
担当調整中	1件

新規派遣相談(1～3月) 3件

外来の看護師の紹介1件、家族の紹介1件、ネスト利用者1件

派遣終了 3件

クライアントの死亡2件、ニーズの消失1件

1月～3月の派遣調整 10件

バディ担当者ミーティング参加実績

第1木曜 11:00～、第3木曜 18:30～

1月、3月は第1土曜日の午前中に開催

1/10 5人 1/15 4人

2/ 5 中止 2/19 4人

3/ 7 3人 3/19 5人

個別のミーティング(1月～3月) 5件

バディ担当者ミーティング開催予定

(日程が変更になっています。ご確認下さい。)

午前ミーティング 11:00～13:00

5/2(土)

6/4(木)

7/4(土)

午後ミーティング 18:30～20:30

5/21(木)

6/18(木)

7/16(木)

土曜日の午前ミーティングを2ヶ月に1回、奇数月の第1土曜日に開催していく予定です。平日のミーティングに参加できない方はぜひご参加下さい。

バディの現場から

1月～3月にかけて、新規の派遣依頼、既に派遣を受けている方の派遣調整、また亡くなられて派遣が終了になる方など、色々な動きがありました。亡くなられた2名の方はぶれいす・バディとも長く関わりのあった方でした。また、新規派遣依頼のうち2名の方は身体に何らかの障がいをもつ方で、今後は定期的な訪問による会話などの関わりになる予定です。

派遣依頼が増えるなか、11月に研修を終えたばかりの新人

の方、登録いただいている方、多くの方に活動していただき、派遣調整を行っています。協力いただいているみなさま、いつも活動ありがとうございます。また活動が終了したパディの方、これまで長く活動いただきありがとうございました。そして待機中の方、今後の活動にぜひ協力いただけますよう、よろしくをお願いします。(報告:牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)*ファシリテーターなど)	
1月	24日	170名	(15名)	(7名)
2月	23日	200名	(9名)	(16名)
3月	25日	197名	(14名)	(15名)

(*はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

カフェ・ネスト

1月:4回 43名 2月:3回 44名
3月:4回 57名

ピア・グループ・ミーティング(PGM)

- ・新陽性者 PGM 第 44 期(参加者 6 名)
1/8 1/22 2/5(修了)
- ・新陽性者 PGM 第 45 期(6 名)
2/7 2/21 3/7 3/21(修了)
- ・新陽性者 PGM 第 46 期(5 名) 3/19
- ・陰性パートナー・ミーティング 1/10(2 名) 3/14(3 名)
- ・ミドル・ミーティング
1/10(7 名) 2/14(13 名) 3/14(11 名)
- ・カップル交流会 1/12(16 名)
- ・もめんの会(HIV/AIDS を支える母親の会) 3/12(6 名)

学習会 / イベント

- ・2/28 ネスト庵「春待つお茶席」(参加者 6、ご亭主 2)
- ・1/26 ストレスとうまくつきあうためのワーク 1 (参加者 6)
- ・2/23 ストレスとうまくつきあうためのワーク 2 (参加者 5)
- ・3/16 ストレスとうまくつきあうためのワーク 3 (参加者 9)

ミーティング(陽性者メンバー、ぷれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング
2/12(9、6) 3/30(6、5)
- ・web NEST 運営委員会
1/23(2、2) 2/26(2、1) 3/27(3、2)
- ・支援アクセスミーティング 1/16(1、4)
- ・ネスト世話人会 3/13(1、3)

ネスト・ニュースレター

1/16:1月号発行 2/24:2月号発行 3/13:3月号発行

ストレスとうまくつきあうためのワークは、ストレスによるこころやからだの変化に気づいて、無理のない対処をしていけることをめざした3回構成のワークショップです。2004年にスタートして、2009年1月-3月の期で8期になりました。前回、日程があわなくて今回の開催を待っていた方もいたそうです。これまで月曜日の夜に行っていましたが、5月から始まる第9期は金曜の夜開催になります。プログラムの詳細についてはweb NEST、または、ネストニュースレターをご覧ください。

(報告:はらだ)

Gay friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動
<http://gf.ptokyo.com>

Gay Friends for AIDS 電話相談

1月 9件(1日平均2.25件)
2月 8件(1日平均2.00件)
3月 11件(1日平均2.75件)

聴覚障がい者向けのメール相談対応

昨年刊行された「Ready Go!! ろう者のための HIV 入門」にて、聴覚障がいの方が利用できる感染不安の相談窓口としてGフレのメールアドレスを掲載しています。この3月に、掲載後初めての相談となる1件の相談がありました。

リーディングイベントの様子をPCで

昨年開催され、Gフレ制作のパネル展示も行われたTOKYO FMのイベントの様子がポッドキャストで聴けるようになりました。5人の方のリーディングをお聴きいただけます。こちらのサイトをご参照ください。

<http://www.tfm.co.jp/podcasts/premium/>

NLGRに参加します

Gフレでは現在今後のイベント内容などについて検討していますが、昨年同様、6/6~7に名古屋市・池田公園で開催されるNLGRにブース出展することが決定しています。当日のブースではお持ち帰りいただける冊子なども用意しています。ぜひお立ち寄りください。(sakura)

HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2009年1~3月

2009年	1月	2月	3月
電話による相談	64	73	82
対面による相談	48	47	39
E-mailによる相談等	57	70	71
うち新規相談	27	28	18

メール新規は含まず

1~3月の新規相談者の属性(N=73)

陽性者: 55人(男性:50 女性:5)
パートナー(元): 2人(男性:2 女性:0)
家族: 11人(男性:4 女性:7)
その他: 2人(男性:2 女性:0)
専門家: 3人(男性:2 女性:1)
(福祉事務所、看護師、MSW)

1~3月新規相談者の情報源(N=75) 複数回答2件あり

WEB(携帯含)	23件	クリニック	3件
看護師	7件	陽性者	3件
電話相談	7件	行政	2件
医師	5件	カウンセラー	2件
家族	5件	友人	1件
パンフレット等 (含む戦略MSM首都圏冊子)	5件	職場	1件
以前から知っていた	5件	就労調査	1件
保健所/検査所	3件	不明	2件

1～3月の新規相談内容

【ミーティング/ネスト利用等】

- ・ 母からの電話。家族向けプログラムについて知りたい。父親が参加できるものがあるか。
- ・ ストレス・マネジメント希望。他の陽性者と交流したい。
- ・ 東海地方から。他の陽性者と会いたいと来所。
- ・ 初回がPGM インテーク・オリエンテーション。(6件)
- ・ 他の陽性者にSNSで勧められた。ストレス・マネジメントを希望。
- ・ ネストのオープンスペース利用希望。

【ぶれいす東京への参加、サービス利用】

- ・ ボランティア希望の陽性者からの連絡。
- ・ パディ派遣の希望。引越の手伝いを依頼。
- ・ ぶれいすの活動について興味がある。日本のHIVの状況を調べている。

【検査や告知】

- ・ 体調が悪く近くの医院で検査をしたら陽性だった。
- ・ 入職時の健診にオプションでHIV検査を加えたら陽性だった。
- ・ 東海地方から。一般病院でカリニ肺炎と診断される。不安が強く眠れない。
- ・ 自主検査から半年過ぎたが不安が出てきてPGM希望。
- ・ 急性症状での入院中、検査で陽性と判明。学生なので服薬をどうするか。
- ・ 2週間前に判定保留。その2週間後に確認検査で陽性と判明。不安や混乱が強い。
- ・ 九州・沖縄地方から。1週間前に告知を受けた。現在、地元の医療機関に通院中。
- ・ 夜間の検査をうけて1週間前に陽性と判明。
- ・ 近畿地方から。可能性があると思い、大学病院で検査し陽性だった。
- ・ 昨日病院で検査キットにて検査を受けたら陽性だった。現在確認検査中。
- ・ 九州・沖縄地方より。春休みに検査を受けて陽性。地元の相談できる場所探し。

【人間関係】

- ・ 母親から紹介されて連絡。
- ・ きょうだいのパートナーが陽性だった。HIVに詳しいとゲイだと疑われるのではと不安。
- ・ 都内クリニックの医師から紹介。パートナーとのセックスについて知りたい。
- ・ 既婚者。MSM。妻からセックスがない理由を問われ、病気を理由に。
- ・ 九州・沖縄地方から。パートナーが肺炎で入院中。退院の話がでているが、大丈夫だろうか。
- ・ 元彼が陽性者。セイファーでやっていたつもりが感染がわかってショック。
- ・ 母からの相談。息子の部屋からHIV関係の書類で感染を見つけた。
- ・ 女性陽性者。夫のストーカー行為がある。
- ・ 近畿地方から。生(ナマ)ですること感染する可能性は？自分の彼は陽性者。
- ・ 母親の介護中。鬱もある。これから服薬開始もあり気持ちがいっぱいいっぱい。
- ・ きょうだいのHIV陽性者がアルコール中毒で暴れている。どうしたらいいか。

- ・ 感染がわかって1ヶ月半くらい。セックスを再開したのだが、皮膚症状がでていて不安。
- ・ MSM。これまで国内でセックスしたことがないため誰にも言っていない。
- ・ アメーバー赤痢の治療をし、HIVだと最近確認した。パートナーの検査をどうしたらいいか。
- ・ 両親が来所。自分たちは息子のために何ができるだろうか。
- ・ 近畿地方から。パートナーからの相談。本人が通院拒否。CD4は低くウイルス量は高いため心配。
- ・ 家族からの相談。母親が判定保留。父親も確認中。今後どうしたらよいか。

【心理的なこと】

- ・ 女性の陽性者。1年前に感染を知るが受容できない。家族と同居している。

【医療など】

- ・ 近畿地方から。ネットの自主検査キットで陽性だった。医療機関の情報が欲しい。
- ・ 感染がわかったのだが、子づくりが心配。
- ・ 抗体で陰性、PCRで陽性。CD4が下がり症状が出ていたので、投薬を開始。
- ・ 都内の病院で入院拒否。本人は死亡。相談者は妊娠中で不安が強い。
- ・ 最近感染が判明。大学病院の主治医が退職する。保健所から紹介された。

【生活や福祉】

- ・ 生命保険について知りたい。入院時のことを考えると不安(2件)
- ・ 脳症で入院。現在退院を促されている。施設が見つからない。
- ・ 本人から連絡。障害年金につき連絡するようMSWからいわれた。
- ・ 近畿地方から。アンケート回答者。障害年金について。
- ・ 近畿地方から。医療機関を紹介されたが経済的に安定していないので不安。
- ・ 女性陽性者。家族と一緒に海外に滞在予定。治療費のことを知りたい。
- ・ 感染判明後、半年。服薬検診中でMSWと会う予定。事前に情報が欲しい。
- ・ マンション購入を希望。借入についての相談。

【就労】

- ・ 現在学生。これから就職活動をするが健診等が心配。
- ・ ネットで調べて連絡。障害枠での就労を考えている。
- ・ 病院の看護師に就労について相談したらぶれいすの情報を提供された。
- ・ 検査で陽性と判明。公務員なので、地元の医療機関への受診が不安。
- ・ 福祉事務所のワーカーから紹介。行政の就労相談を受けている。

【専門家】

- ・ 役所の生活保護担当者から。ぶれいすではどのようなサービスがあるか。
- ・ HIVと難病を併発して入院中。看護師から連絡。今後のことを相談にのって欲しい。
- ・ 入院中の患者から相談を受けたMSWより連絡。生命保険について知りたい。

(報告：牧原 / 福原 / 生島 / 神原)

研究部門

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

「地域における HIV 陽性者等支援のための研究」

（研究代表：生島 嗣）

- ・ 東京都内の 957 カ所の相談機関を対象に、HIV 陽性者への相談対応に関する質問紙調査を 2 月に実施。
- ・ 平成 20 年度総括・分担研究報告書、成果物として事例集やツール集を制作、4 月より順次発行。
- ・ 研究班が運営し、HIV 陽性者とその周囲の人の支援にかかわる人たちのためのリソースやツールを集めた「地域における HIV 陽性者等支援のためのウェブサイト」のコンテンツを増強し、リニューアル（<http://www.chiiki-shien.jp>）。財団法人エイズ予防財団研究成果普及啓発事業（大阪・東京）の実施報告については、2～4 ページの記事をご覧ください。（報告：大槻）

エイズ予防のための戦略研究（研究リーダー：市川誠一）

MSM 首都圏グループ

09 年度以降のアクションの主軸となる、エイズ発症予防に関するキャンペーンについて企画・検討を進めています。ここでは、5/23 開催の Tokyo Pride Festival でのイベントをキックオフと位置づけています。

- ・ ゲイ・バイセクシュアル/ゲイバーのママ・スタッフに向けた季刊誌『TOMARI-GI』2 号を発行しました。これに

あわせて、札幌でのママたちの啓発活動を HIV 専門医や札幌のミュージシャンを招いて紹介する、カフェ・イベント TOMARI-GI を新橋、新宿で 3 月に実施しました。

- ・ ゲイバーを対象とする「MEN-DO キャンペーン パー・アンケート」を 2 月に実施。新宿、新橋、上野、浅草、野毛から調査の方法・結果を伝える「MEN-DO サイト」が今夏オープン予定です。（報告：岩橋）

MSM 京阪神グループ「陽性者サポートプロジェクト関西」

1. 陽性者サポートライン関西

～ HIV 陽性とわかって間もない人のための電話相談～

・ 電話相談実績

2009 年 1 月：2 件 2 月：3 件 3 月：3 件

・ 新規相談員が増えました。

2. ひよっこクラブ ～新陽性者ミーティング in 関西～

・ いよいよ 9 月よりミーティングが始まります。

・ 新規スタッフ決定：ピア 2 人、スタッフ 2 人、医師 2 人

3. 地域カンファレンス ～地域のネットワーク構築～

6 月、11 月に開催予定です。

日 時：6 月 18 日（木）18:30 新人向け名刺交換会

場 所：chot CAST なんば

テーマ：関西地区の医療体制について

ゲスト：大阪府、大阪市の担当者

11 月 3 日（予定）には、「HIV 陽性告知後のサポートについて」をテーマに開催予定。（ゲスト：大木幸子：杏林大学/地域における HIV 陽性者等支援のための研究班）

（報告：生島）

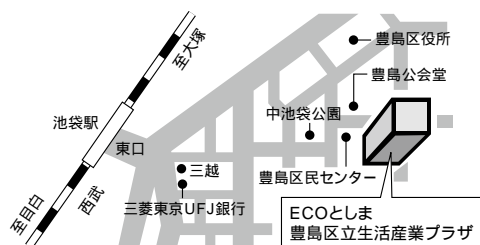
特定非営利活動法人 ぷれいす東京 2008 年度総会・活動報告会のご案内

恒例の総会・活動報告会を今年も開催します。部門報告は、それぞれの部門から日頃の活動を現場感覚いっぱいにお届けします。多様なスタッフの登壇が活動の広がりを感じさせてくれます。

また、トークコーナーのゲストは、臨床の現場から基礎・社会まで鋭く見通すエイズ対策の第一人者である岩本愛吉さんをむかえ、日本とアジアの最前線のお話を伺います。スライドもたくさんあるそうです。みなさま、お楽しみに！ぜひご参加ください。

日時 2009 年 5 月 30 日（土）

会場 豊島区立生活産業プラザ『ECO としま』
多目的ホール（8F）豊島区東池袋 1-20-15



第 1 部 総会 13:10～13:40

* 総会の議決に参加できるのは正会員のみです。活動会員、賛助会員の皆様も総会にご出席いただけますが、議決権はありません。あらかじめご了承ください。

第 2 部 活動報告会 14:00～16:50（開場は 13:45）

・ あいさつ

・ 部門報告 ホットライン、Peer Empowerment Program、パディ、ネスト/PGM、Gay Friends for AIDS、HIV 陽性者への相談サービス、研究/研修部門

・ トークコーナー 岩本愛吉さん

（東京大学医科学研究所教授

厚生労働省エイズ動向委員会委員長）

* 活動報告会はどこでも参加できます。ぷれいす東京の会員・賛助会員・寄付者・ネスト利用者・招待者は無料。それ以外の方は、資料代として 1,000 円いただきます。

* 17:30 より懇親会が開催されます。どなたでも参加できます。（会費制）

* 当日の連絡は下記携帯電話までお願いします。

ぷれいす東京携帯電話 090-9152-0918（昼 12:00～）

編集後記

- ・ 春ですねぇ～。新年度を記念して欲しかった圧力鍋を購入！玄米ごはんがモチモチに炊きあがり美味しいです...。（こんどう）
- ・ 来る活動報告会のゲストは、海外のゲストを新宿 2 丁目 akta に案内するような幅広い視野をお持ちの岩本愛吉氏だ。ご期待ください。（いくしま）
- ・ 恒例のお花見が今年も開催されました。桜は三部咲きでしたが、参加者は 70 名と大盛況。お久しぶり！初めまして！お元気?...いろいろな人が集う、ぷれいすならではのお花見にぜひまたどうぞ。（やじま）

編集・発行：特定非営利活動法人 ぷれいす東京
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-22-46 ザ・テラス 204
TEL：03-3361-8964（月～金 12:00～19:00）
FAX：03-3361-8835
E-mail：info@ptokyo.com
ぷれいす東京 HP：http://www.ptokyo.com/
Gay Friends for AIDS：http://gf.ptokyo.com/
web NEST：http://web-nest.ptokyo.com/